



ポーランドの美しき地域：
マウオポルスキェ県－世界遺産の豊富な地域

2010年7月

駐日ポーランド共和国大使館



情報:	地域：ポーランド南部
• 面積:	15,108 km ²
• 人口:	約 3,253,000 人
• 人口密度:	215 人/km ²
• 県都:	クラコフ (Krakow) - 人口: 約 74 万人
• 主な都市:	タルヌフ (Tarnow), ノヴィ・ソンチ (Nowy Sacz), ザコパネ (Zakopane)
• パトナー地域	トスカーナ州(イタリア); テューリンゲン州(ドイツ); ローヌ＝アルプ地域圏(フランス); マドリード州(スペイン); プレシヨフ州(スロバキア); リヴィウ州(ウクライナ); 江蘇省(中国); アーンドラ・プラデーシュ州(インド); 南デンマーク地域(デンマーク); イリノイ州(アメリカ); ウプサラ県(スウェーデン)
• 姉妹都市	キエフ (ウクライナ)、ルーヴェン (ベルギー)、ミラノ (イタリア)、ニュルンベルク (ドイツ)、クリチバ (ブラジル)、ラ・セレナ (チリ)、キト (エクアドル)

概要:

マウオポルスキェ県は、特有の自然と文化遺産が共存するヨーロッパでも類まれな地方です。ポーランドの歴史と文化の至宝が密集していると言えます。600にのぼるポーランドの国宝および最も重要な博物館のうち、100か所がマウオポルスキェ県に位置しています。ユネスコ世界遺産に登録されているポーランドの遺産18か所のうち、実に8か所がマウオポルスキェ県内にあります。

マウオポルスキェ県は長い伝統を持っており、住民の地元意識が非常に強いです。本県の魅力を決定付けているのは、国境（スロバキア共和国）沿いという地理的位置です。マウオポルスキェ県の面積は比較的小さく、人口密度は高い。都市化はあまり進んでいません。地域の中心となっているのは、経済的にも、科学的にも、文化的にも、クラクフである。県内には26の高等教育機関と、多くの科学研究所があります。県経済はバラエティーに富んでおり、伝統的工業だけではなく、先進部門も存在しています。観光面でもマウオポルスキェ県はポーランドでも最も魅力的な地域の一つであり、観光業を専門産業にしてもおかしくないほどです。他に例を見ない遺跡を抱え、景色も多様です。本地域の魅力は、国内外の投資家も認めています。

マウオポルスキェ県の長所:

- 文化、金属、サービス、輸送の一大センターである主要都市クラクフの存在。
- ハイテク産業の存在。
- 投資先として非常に魅力的である。
- 地元意識が強い。
- 文化遺産、自然遺産の持つ潜在力。

マウオポルスキェ県の経済:	
• 一人当たりの GDP	24,111 PLN (2006 年) ~ 804,000 円
• 産業の主な分野	BPO, バイオテクノロジー, 化学産業, 金融サービス、 ハイテク、物流、冶金工業,自動車産業、印刷産業、食品産業、 観光業
• 主な投資家	アルセロール・ミッタル,ビーピー・ピーエルシー、 カールスバーグ、コカ・コーラ、ドイツ銀行, フランス電力公社、 HVB グループ, マン 企業, フィリップモリス, ヴアレオ
• 日本企業による投資	住友グループ, 日本電産モーターズ アンド アクチュエーターズ 株式会社
• 主経済団体	技術・事業活動会議所、クラクフ商工会議所、タルノフ商工会議所、 マウオポルスキェ県農業会議、マウオポルスキェ県観光局、 マウオポルスキェ県雇用協会、貿易イノベーション会議所
• 主経済団体	<ul style="list-style-type: none"> -高レベルな学術機関、研究・開発センターの存在 -ヨーロッパ屈指の観光地 -高学歴な労働力 -地理的利便性—東（ウクライナ）西（ドイツ） 南（チェコ、スロヴァキア）北（ポーランド北部、 バルト海）への抜群のアクセス -ポーランド第2の規模を誇るクラクフ空港 -充実した投資インフラ（経済特区、経済活動特区） -国際企業に対応できるトップクラスの経済文化、 企業精神、開放性 -文化、金融、ビジネス、交通拠点としてのクラクフの 利便性 -既存のハイテク産業の存在 -多様な投資ポテンシャル -豊富な天然資源 -成熟した銀行制度 -ビジネス支援機関ネットワークの充実 <p>日本企業への対応</p> <p>経済協力（視察の手配、トレード・フェアへの参加、 貿易・投資サポート等）</p>



クラクフ

11世紀からの約600年間、ポーランドの首都として栄えた都市です。第二次世界大戦の戦火を免れ、現在、クラクフの旧市街とヴァヴェル城はユネスコの世界文化遺産に登録されています。その中世のままの旧市街のレイアウト、中世のものとしてはヨーロッパ最大の広場、聖マリア教会とそのゴシック様式の木彫祭壇、バベル城とその王宮、大聖堂とそのルネサンス様式の礼拝堂、中世の大学の建物コレギウム・マイウスとそのユニークな天文学機器などが見所です。クラクフのカジミェシュ地区にはユダヤ文化の遺産が数多く残り、16世紀のシナゴグと墓地、シナゴグの一つを利用したユダ博物館などがあります。

面積：

326, 8 km²

人口：

755000 人

ワルシャワからの距離

274 km²

<p>文化：</p>	<p>クラクフはマウオポルスカ地方のハブ都市、文化の中心地であり、例年数多くの文化イベントが開催されています。代表的なものに、“Misteria Paschalina（ミステリア・パスハリナ）”イースター・クラシック音楽祭、ヨーロッパ最大規模のユダヤ文化フェスティバル（6月）、古都クラクフ音楽祭（8月）、“Sacrum – Profanum（サクルム・プロファナム）”祭（9月）、クラクフ国際映画祭（ドキュメンタリー映画）、国際版画トリエンナーレ、新ポーランド音楽祭、ジャズ・ミーティング、PAKA キャバレー・レビューをはじめ、8月の最終週に催されるクラブ・ミュージック・ファンのためのコーク・ライブ・ミュージック・フェスティバルも必見です。</p> <p>クラクフ周辺の町々でも、ユニークなイベントが目白押しです。ザコパネの「山の民の民族音楽」国際フェスティバル（8月）、ブコヴィナ・タトシヤンスカの「サバワ爺さんのお話語り」祭（8月）と山岳カーニバル（2月）、ノヴィ・ソンチの「山の子」祭（7月、8月）、タルヌフのタリア・コメディ・フェスティバル等があります。</p>
<p>教育：</p>	<p>クラクフには15にのぼる高等教育機関があり、13万人もの学生が学んでいます。中でもクラクフ・アカデミーとして1364年に創立されたヤギェウォ大学（学生数44,200人）は、コペルニクスやヨハネ・パウロ二世を輩出しました。その他、ポーランド屈指の工業大学であるAGH工業大学（学生数29,800人）をはじめ、経済大学、教育大学、クラクフ工業大学、農業大学、美術大学、演劇大学、音楽大学があり、非常に高く評価されています。ノヴィ・ソンチは、アメリカのカリキュラムを導入したビジネス・スクール（学生数4,500人）が1992年に創立され、当地方の文教センターとなりつつあり、タルヌフにも私立大学が2校あります。</p>

<p>マウオポルススキェ県の観光地：</p>	
<p>マウオポルススキェ県には、環境保護を目的に、4つの国立公園と多数の自然保護区が設けられています。ザコパネ（ポーランド随一のスキーリゾート地）、タトリ山地、ピェニニ山地、ベスキディ山脈の雄大な自然は、観光、スポーツ、レジャーに最適です。また、ヴィエリチカ岩塩坑、巡礼の町カルヴァリア・ゼブジドフスカ、クラクフ歴史地区はユネスコ世界遺産に登録されています。クラクフから南西50kmにあるヴァドヴィツェは前教皇ヨハネ・パウロ二世の生誕地であり、記念博物館があります。オシフェンチムにあるアウシュヴィッツ・ビルケナウナチス・ドイツの強制絶滅収容所は年間100万人が訪れています。ヨーロッパ最古の塩坑の町ボフニャも人気の観光地です。</p>	
 <p>タトリ国立公園</p> <p>タトリ国立公園は、カルパティア山脈に属する最も高い山脈、タトリ山塊のポーランド側領域にあります。ここには、変化に富んだ中欧の高山に特有の原始あるいはあまり人の手の入っていない植物群（約1000種）、および他に見られるチャンスの少ない動物（約40種）も存在しています。アルプスマーモット、シャモアなどと遭遇することがありま</p>	 <p>ヴィエリチカ岩塩坑</p> <p>クラクフの南東郊外、かつてはポーランド王国の大きな財源となっていた地底の岩塩坑があります。ヴィエリチカは世界でもっとも古い採掘所の一つであり、13世紀からつい最近まで、稼動し続けています。地下の観光ルートは3.5キロメートルに及び、岩塩の中には掘られた地下通路やユニークな岩塩の彫刻がある色々な地下の部</p>

す。タトリ国立公園の一番有名な見所は「海の瞳」と呼ばれるモルスキェ・オコ湖ですが、湖を囲んでいる山の中にはポーランド最高峰リスイ（標高 2499m）がそびえています。

屋を通っています。地下 101mにある聖キング礼拝堂は祭壇からシャンデリアまで、全てが岩塩と結晶からできています。また岩塩坑にはサナトリウムもあり、地下博物館には岩塩坑の歴史を語る道具や資料が展示されています。



カルヴァリア・ゼブジ ドフスカ - 巡礼の町

この町の歴史は 17 世紀の初めまでさかのぼり、当時のクラクフ県知事ミコワイ・ゼブジドフスキがここにシトー会の修道院とエルサレムの丘にならったキリストの受難の礼拝堂群を建てたことに始まります。現在も建造当初の姿をほぼとどめており、年間 100 万人以上の巡礼者が訪れます。シトー修道院はロココ様式の要素をもった後期バロック建築で、中にはいくつの回路があり、マニエリスムの多彩な室内装飾が施されています。また、貴重な絵画が多数あることも知られています。聖週間と聖母マリア被昇天の祭日に‘キリストの受難と行列の祭り’が行われます。



南部マウオポルスカ の木造教会群

なだらかな山並みが続くポーランドの南部の中には 2003 年にはユネスコの世界遺産のリストに登録された 6 つの教会があります。全ての教会に共通するのは、こけら板でおおわれたポーランド南部ならではの特徴ある建築様式とカラフルなかわいらしい室内装飾がある点です。